

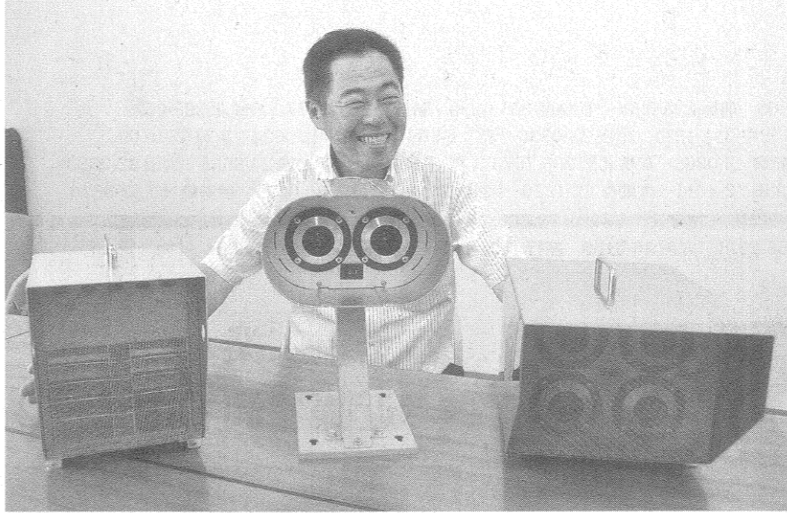
# 超音波 カラス・サル撃退

## 高崎で開発 スピーカー威力

高崎市の精密板金会社「モハラテクニカ」（茂原純一社長）が開発した超音波による鳥獣撃退装置が注目を集めている。カラスやイノシシ、サルなどの有害動物が嫌がる超音波を発生させて撃退する仕組みで、防護柵を設けるよりも設置が簡単なのが特徴。耕作地やゴルフ場、工場の駐車場などで利用されているほか、線路に飛び出してくるシカ対策として電車の先頭車両に搭載するタイプもあり、幅広い分野で効果を発揮している。

### 発売4年 広がる用途

同社は2008年から、動物や鳥の嫌がる超音波をスピーカーから出して撃退する装置「ユーソニック」（高さ25センチ、幅24センチ、奥行41センチ）を販売している。装置には、4つのスピーカーを搭載。音階や波長を組み合わせることで、動物が嫌がる様々な超音波を発生させることが可能のため、1台で複数種の動物に対応できる。



4つのスピーカーのついた「ユーソニック」（右）などを前にする茂原社長（高崎市矢島町で）

装置が発生させる超音波は、人間の耳には、かすかな音でしかないが、動物たちには、嫌な不協和音がジェット機の離着陸時並みの爆音で聞こえるという。効果の範囲は、動物や設置場所などで異なるが、イノシシの場合、約50〜80メートルで有効という。従来型を改良した最新型では、「ビニールハウスなど狭い場所向きの小型タイプ」「電車などの車両搭載用」「上空に超音波を飛ばせるタイプ」など様々な種類が開発され、用途が広がっている。同社では発売以来、約2,300台を売り上げ、全国から注文や問い合わせが相次いでいるという。

トヨタ自動車（愛知県豊田市）では、港に接したモータープールで出荷待ちの新車がカラスにつつかれるなどの被害に悩まされていたが、2009年から鉄塔などに計14台を設置。被害の軽減に成功した。

茂原社長は、「カラスのように遊び目的の動物は撃退しやすい。難しいのは、少しくらい嫌な音がしてきても出てくる餌を探している動物だ」と話す。

このケースに対応したものが、山間部を走る兵庫県内の私鉄で導入されたタイプだ。線路に飛び出してくるシカ対策として先頭車両の下部に計12個のスピーカーを搭載。カーブなどで減速した状態ならば、約100メートルまで音が届くという。シカやイノシシの出発地点に近づいたり、姿が見えたりした時に、運転手がペダルを踏めば装置が作動する。この私鉄では、これまで毎月のように動物との接触事故が起きていたといい、担当者は、「嫌な音が出ることを覚えて出てこなくなってくれば」と期待

を寄せている。茂原社長は、「例えば同じ種類のシカでも嫌がる音が異なることもある。環境によって効果も変わる。まずは試験的に設置して試してほしい」と提案している。